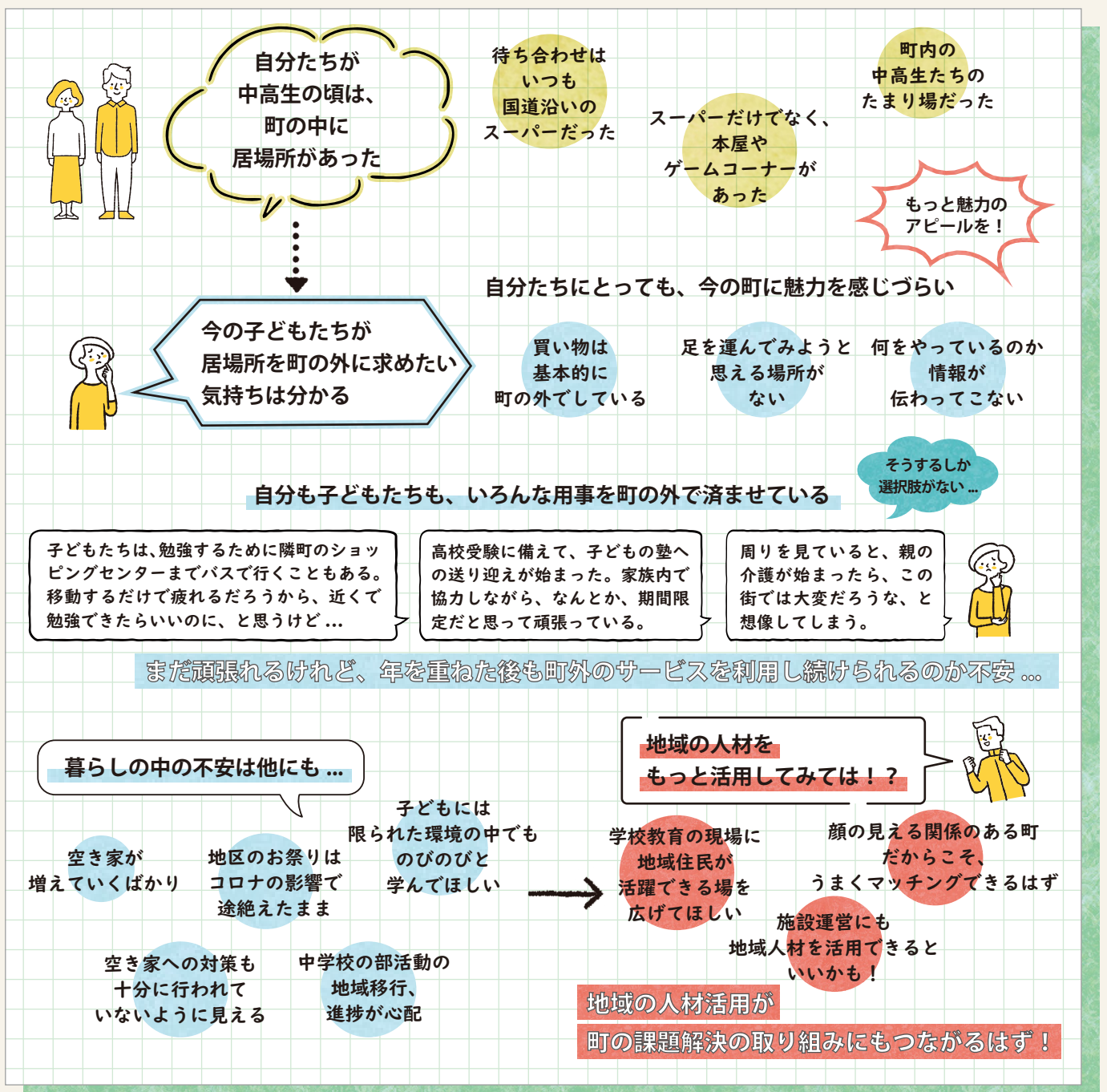


皆さんの「声」を聞かせてください！

中山中学校保護者の皆さんの話

今回は、中山中学校に通うお子さんをお持ちの保護者の皆さんにインタビューを行いました。暮らしの中で、町内だけでは完結しない部分を「少しの不便」として受け入れながら、自ら積極的に町外に選択肢を増やす等、子どものためにより良い環境を整えようとする保護者の皆さんの奮闘ぶりが感じられました。



1

自分たちには居場所があった

これまでのインタビューで、中高生たちからよく聞かれたのは、同世代で集まって自由に過ごすことが出来るような「居場所がない」という話でした。しかし、こうした世代よりも少し上の中学生の保護者世代の皆さんからは「自分たちが若い頃は、居場所があった」という話が聞かれました。国道沿いに建つスーパーの中には、当時ゲームセンターや本屋があり、中高生

の頃は友人たちとよく遊びに行っていたということでした。今はスーパーがメインとなったその場所は、かつてと同じように中高生の居場所にはなっていないようで、「町外にそういう場所を求める気持ちも分かる」という共感も垣間見えました。かつて自分たちがお世話になったような居場所が現在の町にはないことを、改めて実感したようでした。

2

「選択肢を増やす努力」が町民側に求められている

中学生になると、受験を意識して放課後に塾に通う子どもも増えてきます。その塾の選択肢を町外に求めた場合、子ども自身が電車で通ったり、保護者が送迎を行ったりと、それなりの負担があることが分かりました。町外への通塾は「ものすごい不便というわけではなく、妥協できる範囲」「送迎は大変ではあるけれど、季節ものだと思えば頑張れる」という意見もありましたが、それでも、

それぞれの世帯が相当の努力をしながら子どもの学習環境を維持している現状が中山町にはあるようです。

他にも、普段の買い物や休日のお出かけ、通院や親の介護等、暮らしのさまざまな場面において町外に頼る実態があり、それはまだまだ動ける保護者世代が選択肢を自らの力で増やしている結果であり、一方で現状の改善に期待したい側面もあるようでした。

3

町の人材活用を

令和5年度から始まった「部活動の地域連携・地域移行」は、中山町においては取り組みが本格的に実行されるのはこれからのようです。取り組み状況にばらつきがあったり、指導者側と生徒側のコミュニケーション不足もあり、「部活動に本格的に取り組めないことによる子どものモチベーション低下が心配」という声も聞かれました。

教育現場における地域連携事例としてはコ

ミュニティ・スクールが先行していますが、中山町としては「地域の人材を活用しきれていないのでは」という課題を抱えているそうです。保護者の皆さんからも、子どもたちの教育につながるよう「町内の人材と学校現場をうまくマッチングさせてほしい」という要望が上りました。コンパクトで顔の見える関係のある町だからこそ、改善可能な課題であると感じました。

【コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）】

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。学校運営協議会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法第47条の5）に基づいて教育委員会が学校に設置する。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

◎中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎 120 番地／電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025 年 4 月発行〉